

(1) オルヴェウスいじめ防止プログラム開発の歴史的経緯

1982年にノルウェーにおいていじめに遭い、3人の子どもが自殺した事件後、ノルウェーが国家規模で実施した「いじめ撲滅運動」の一環として、ベルゲン大学のダン・オルヴェウス教授が開発したいじめ防止プログラム

(2) プログラムの最終目標

①生徒間のいじめを減らすこと ②新たないじめの拡大を防ぐこと ③学校でより良い仲間関係を作り上げていくこと

(3) プログラムの主な実施内容

学校全体に求められるもの - 学校側が関わることと意識すべきこと -

実施レベル	実施内容
全校	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校で実施されるいじめ防止プログラムのあらゆる内容と実施を統括する「いじめ防止協議委員会」を設置すること 2 プログラム実施前に「いじめ防止協議委員会」のメンバーが「オルヴェウス・トレーナー」との2日間のトレーニングを実施すること ☆ 現在、日本には有資格トレーナーが不在のため、トレーニングは未実施 3 いじめアンケートの実施と定期的な運用 4 スタッフ討議グループによる学校でのいじめ防止の努力についてプログラムおよび反響に関するミーティングの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 討議グループは15人以下 ・ 隔週1時間のミーティングを推奨 5 いじめに対する学校のルールと懲罰手続の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの反いじめルール(※)の校則化 6 「校内生徒見守り制度」の評価と改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 反いじめルールの実施と徹底 ・ いじめが起きやすい場所のモニタリングスタッフの配置 7 全校集会、寸劇、ビデオ等を用いたキック・オフ・イベントの実施 8 全校の保護者を巻き込むこと
クラス	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校レベルでの反いじめルールの導入・徹底と毎週のクラスミーティングの実施 ☆ ロールプレイを用いたクラスミーティングの実施 2 保護者へのプログラムの重要性、保護者の果たす役割についての理解促進を目的とした定期的な保護者会の開催
個人(教師)	<p>いじめ問題が生じた場合の個人レベルでの対応を目的としたスタッフへのトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめを見たときの向き合い方 ・ いじめの加害者・被害者への事情の調べ方 ・ 被害者への支援の仕方 ・ 加害者との話し合いの持ち方など
地域	<ol style="list-style-type: none"> 1 「いじめ防止協議委員会」への地域住民の参画 2 学校の「いじめ防止プログラム」をサポートしてもらうために地域住民と協力関係を強化すること 3 地域で反いじめメッセージと効果的な活動を広げるための支援

4つの反いじめルール(※)

- ① 私たちは、他の人をいじめません
- ② 私たちは、いじめられている人を助けます
- ③ 私たちは、一人ぼっちの人を仲間に入れます
- ④ 私たちは、もし誰かがいじめられていれば、それを学校の大人や家の大人に話します

(4) プログラムの効果

- いじめの被害、加害生徒数の減少
- 器物損壊、けんか、窃盗、ずる休み等についての減少
- クラスの雰囲気著しい改善(クラスの規律や秩序の改善・学習や学校行事に対する積極的な取組等)

(5) プログラムの実施への留意点

- 本プログラムは教科プログラムではなく、制度改革アプローチである点
- 短期間(1年間)で成果が得られるものではなく、長期間(何年間)の継続が必要である点
- プログラム導入にあたり、教師のトレーニングが必要である点
- プログラム内容を可能な限り忠実に実施する点